

---

# 遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

ガイウス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

### 【Nコード】

N7187Z

### 【作者名】

ガイウス

### 【あらすじ】

エクシーズ召喚とは！ 同じレベルのモンスターを重ねて召喚する新たな召喚方法！ この召喚方法によりデュエルはより戦略的になった！ …この物語はエクシーズが当たり前の時代に時代遅れの召喚方法を使うデュエリストの物語…

**第1話 時代遅れの召喚方法（前書き）**

ついやってしまった…

既に連載作品あるのに…

## 第1話 時代遅れの召喚方法

『最新エクシーズモンスター インヴェルズ・ローチ！  
今なら6000円のお得価格！今なら6せ』

とある部屋で1人の少女…ではなく少年がテレビの電源を切る

彼の容姿は金髪のポニーテールと周りから見れば女の子と間違われ  
てもおかしくない容姿である

要するに男の娘である

「インヴェルズ・ローチ かあ…。まあデュエルモンスターを  
やってない僕には関係ないか」

彼の名は相沢聖<sup>あいざわひじり</sup>

デュエルモンスターとはなにも縁のない少年がデュエルモンスター  
ーズに関わる事件に巻き込まれる物語である…

視点 聖

- ハートランド カードショップ -

「 グレンザウルス でダイレクトアタック！」

「また負けたあああ!!」

遊馬 LP20000

「遊馬君…。またですか」

「エクシーズモンスター持ってない俺からしたら グレンザウルス  
つえーよ!!」

「遊馬! グレンザウルスなんてエクシーズモンスターの中じゃ  
あ普通のモンスターだぜ?」

「鉄男! お前はそう言うけど俺はエクシーズモンスターを持ってな  
いんだよぉ!!」

「遊馬…情けない」

「小鳥までかよ!!」

持っていないから関係とは言ったけど…やっぱりやりたくてついつい  
来てしまうんだよね

でも…お金が70000円しかない

D・ゲイザーとかであつという間にお金が飛んじゃうからカードど  
ころじゃない

カードだつてどんなデッキにもはいる サイクロン は1枚150  
0円

そしてエクシーズモンスターは一般で量産されている グレンザウルスが2000円

こんなじゃ弱小カードしか買えない

「…デュエルしたいなあ」

「デュエルがしたい！けどお金が足りないと思ってないかな？」

「うわっ！な、なんですか!？」

僕の背後から若い男性店員が僕を呼んでいた

「俺は神代進<sup>かみしろすすむ</sup>。」

君が毎日デュエルを見てるだけなのを見てたからどうしたのかわかってね

「えっと…恥ずかしいんですけど…今年でデュエルしたことなくて」

周りのみんなはデュエルしてるけど僕だけはしてなかった

まあ原因はお金の問題なんだけど

「どんなド素人でも大丈夫！今ならこのジャンクカードの山が100枚につき1000円で取り放題&選び放題！」

そう言いながら進は大きなダンボールを持ってくる

「こんなに！？」

「…でもD・ゲイザーとか無いし…」

「無いの？仕方ない！サービスでD・パッド&D・ゲイザーをタダでプレゼントだ！」

「ほ、本当ですか！？」

なんか都合が良いような気がするけどこの際気にしない！

「…ただし！条件がある！」

「条件？」

…やっぱりなにかあった

「今度この店に展示される インヴェルズ・ローチ を手に入れたらタダであげるよ！」

「 インヴェルズ・ローチ を？」

ジャンクカードと インヴェルズ・ローチ を合わせると…合計7000円だ

「お金足りるし…普通に機材揃える方がお金かかるから丁度いいや」

「決まりだね。じゃあジャンクカードから100枚選んでよ！」

「選んでよ…！」「って言われても…」

めっちゃくちゃあるから探すだけで骨が折れそう…

「進さん！」

「遊馬君。どうしたんだい？」

あの特徴的な髪型の男の子…遊馬君っていうんだ

…そんなことよりカードカード

「インヴェルズ・ローチ っていう展示されるんだ？」

「インヴェルズ・ローチ なら明日だよ明日」

「…明日あ!?!」

「あつ、ハモった」

明日ってすぐじゃん!

急がないと…!

「てか進さん?あそこのねーちゃんなにしてるの?」

「いや…僕、男なんだけど」

「ええ!?!その見た目で!?!」

失礼な!

よく間違われてるから慣れたけども!



「男の子だったの？女の子かと思ってたや」

進さんもか…

そんな事を思いながら僕はカードを探す

「てかねーちゃん…じゃなくてにーちゃんさあ？ジャンクカード買  
うの？」

「そうだけど？」

「そんなか古いカードしかないぜ？  
古いカードって弱小カードばっかだし」

「そうなの？この マンジュ・ゴッド は使えると思うけど？」

マンジュ・ゴッド の効果は召喚か反転召喚に成功した時にデッ  
キから儀式モンスターまたは儀式魔法1枚を手札に加える効果

ちなみにさっきジャンクカードから3枚見つけたよ

「儀式い？あんなのやるよりエクシーズ召喚した方が早いぜ？」

「鉄男？」

えっそうなの？

でもエクシーズ高いしなあ…ってあれ？

進さんからオーラが…

「鉄男君…。ちょっと裏まで…来る？」

「す、すみませんでした…！」

「あの…儀式について教えてほしいんですが」

「儀式！？儀式というのは…」

儀式について教えてほしいと進さんに訪ねた瞬間進さんの目が光り  
教えてくれた

…10分くらい

「…とこれが儀式の全部だよ」

「は、はあ…」

そうこうしている内に時は過ぎ…

「まあ…こんなものかな？」

「うわぁ…まじで儀式デツキにしたのかよ」

「古いカード…すみません進さん」

「さてと…コレで君のデツキも完成だ。明日から君はデュエリスト  
だ！」

…明日 インヴェルズ・ローチ を手に入ればはれて僕はデュエ

リストに…あれ？

「あの…そういえばあのジャンクカードの中に儀式モンスターが入ってなかったんですけど？」

「……………」

「…無いんですか!？」

「…ごめん。儀式モンスターは自分で探してね」

「そんなぁ……………」

こうして僕のデュエリストとしての道は真つ暗闇に葬られた…

「はぁ…。儀式デッキなのになんで儀式モンスターが無いんだ」

せつかく 高等儀式術 とか 奈落との契約 とか手に入れたのに…  
(進さん曰わくオススメカード)

僕が夜道を歩いてると1つのゴミ箱が目に入った

「…ゴミ箱に入っていないかな？」

僕は無意識にゴミ箱を漁り始めた

「… E・HERO エッジマン に ベビートラゴン とかがあ

る…。

儀式モンスターは…あった！」

なんとという幸運！

しかも同じカードが2枚！

僕はカードをデッキに入れ家に帰って行った…

視点　?????

「あの子…あのカードを…」

あのカードは…私のお母さんの敵<sup>かたき</sup>

あのカードだけは…許さない

視点　聖

「うわあ…いっぱいいるなあ」

「そりゃそうさ。なにせ インヴェルズ・ローチ だからね」

流石は6000円なだけはあるね

「僕はコレから司会をやるから君は頑張って インヴェルズ・ロー

チ を手に入れてくれ！」

「は、はい！」

大丈夫だろうか…

みんな インヴェルズ・ローチ が欲しいのかめちやくちや殺気た  
っている

「みんなー！ インヴェルズ・ローチ が欲しいかああ！」

「「「「「おおおお！！」「」「」」

す、凄い…

インヴェルズ・ローチ ってそんなに凄いカードなのかな…？

「ではスポットライト…カモン！」

辺りが暗くなりスポットライトの光が映し出される

「このスポットライトに当たった2人が インヴェルズ・ローチ  
を手に入れる権利を得られる！」

えっ？

商売としてどうなのそれ？

ていつかそれだと僕はどうなるの！？

D・パッドは！？

D・ゲイザーは!?

都合が良すぎるとは思ったけどコレはあげるあげる詐欺だったのか  
…!

そんな事を考えてるとスポットライトの光が止まった

ていつか眩しい…ってスポットライトの光が僕に!?

「よっしゃー!俺にもスポットライトが当たったぜ!」

あれ…遊馬君も?

「スポットライトが当たった2人は前のデュエルフィールドへ!」

僕がデュエルフィールドに向かってしているとみんな恨めしそうな視線  
で睨んでいた

…怖いなあ

「さあ!今から インヴェルズ・ローチ を賭けたデュエルを始めるぞおお!」

…デュエルう!?

「あの…デュエルって?」

「インヴェルズ・ローチ !それは此処にいる選ばれしデュエリストのみが手に入れる事ができるカード!

その選ばれしデュエリストを選ぶのに相応しい方法はただ1つ！デュエルだ！」

「…意味が分からないんですけど!?!」

「君は今日始めたばかりだから分からないのも仕方ないか。

…これD・パッドとD・ゲイザーね」

進さんがこっそりD・パッドとD・ゲイザーを渡してくれた

…勝たないと手に入らないなら勝つしかないと

「あれ？昨日のねー…にーちゃんじゃん？

悪いけど初のエクシーズモンスターは俺の物だぜ！」

「遊馬…大丈夫かしら？」

「相手はド素人な上に儀式モンスターが無いから大丈夫だろ…多分」

周りから弱小デュエリストの遊馬とか遊馬の相手はド素人かとか聞こえてくる

…事実だから言い返せない

「さあ！準備はいいかな？

ではデュエルスタート！」

「Dディスクセット」えっと…どうするんですかこれ？「……………負けたら絶対に恥ずかしいな」

「教えるの忘れてた…」

その後Dディスクのセットなどに2分かかりました…

「今度こそ準備はいいね？」

「はい！（おう！）」

「ではデュエル…スタート！」

聖 LP4000 遊馬 LP4000

「先攻はもらうぜ！ドロー！」

「遊馬ー！相手は初心者なんだからねー！」

「わかってるよ！ズババナイトを召喚！」

ズババナイト ATK1600 DEF900

『ズババー！』

黄色い騎士…なのかなアレ？

「そして罨カードを1枚セットしてターン終了だぜ！」

…周りが大笑いしてる



なんで？

「遊馬！魔法・畏ゾーンにセットするカードは言わなくて良いんだよー！」

「あ…そうだった」

そうなんだ…

知らなかったから僕も言ってたかもしれない…

「えっと…僕のターン！ドロー！」

えっと…ズババナイトの攻撃力が1600だから…

「デーモン・ソルジャーを召喚！」

デーモン・ソルジャー ATK1900 DEF1500

「こ、攻撃力1900だって!?!」  
凄い…!

今までD・ゲイザー持ってなかったからわからなかったけどソリッドビジョンって凄い…!

「あ…もしもし?」

「…っと思とれてる場合じゃないや。」

バトル！デーモン・ソルジャーでズババナイトを攻撃！」

デーモン・ソルジャー は ズババナイト を拳で殴り破壊する

「ズババー！」

遊馬 LP4000 3700

「えっと…カードを1枚セットしてターンを終了」

「俺のターン！ドロー！」

ガガガマジシャン を召喚！」

ガガガマジシャン ATK1500 DEF1000

『ガガガー！』

ヤンキーみたいな魔法使いだ…

でも攻撃力1500じゃあ デーモン・ソルジャー は倒せないよ？

「更に手札から装備魔法 ワンダー・ワンド を発動！

ガガガマジシャン に装備するぜ！」

ガガガマジシャン ATK1500 2000

「攻撃力が上がった！？」

「装備魔法はモンスターの能力を上げる効果があるんだぜ！」

ということ…デーモン・ソルジャーは破壊される！

「バトル！ ガガガマジシャン で デーモン・ソルジャー を攻撃！ガガガマジック！」

ガガガマジシャン は デーモン・ソルジャー を ワンダー・ワンド で殴り倒した

殴るの！？

マジシャンなのに殴るの！？

「更に畏カード発動！ リビングデッドの呼び声 ！」

「リビングデッドの呼び声 ？」

「リビングデッドの呼び声 は墓地からモンスターを攻撃表示で特殊召喚できるんだ。

しかもバトルフェイズだから攻撃が可能だ。しかし…遊馬の奴がこんな事をやれるとはな」

「ズババナイト を攻撃表示で特殊召喚だ！」

『ズババー！』

また ズババナイト が…！

「ズババナイト でダイレクトアタックだ！」

えっと…こういう時は…これかな？

「畏カード発動！ リビングデッドの呼び声 ！」

「なあ！？お前もかよ！？」

「墓地から デーモン・ソルジャー を攻撃表示で特殊召喚！」

僕の前に再び デーモン・ソルジャー が現れる

「じゃあ手札から速攻魔法 サイクロン を発動！」

「サイクロン ！？」

「サイクロン は速攻魔法！自分のターンなら手札から発動可能な魔法カードだ！」

「たしか リビングデッドの呼び声 は永続罫！  
リビングデッドの呼び声 の影響を受けている デーモン・ソル  
ジャー は破壊されちゃうわ！」

そうなの…ってよく見たらカードに書いてるや

…ってそんな場合じゃない！

サイクロン に リビングデッドの呼び声 が破壊され デーモ  
ン・ソルジャー が巻き込まれる

「コレでがら空きだ！ズババナイト でダイレクトアタック！」

ズババナイト が聖に接近し大きな剣で切り裂く

「うわああー！」

聖 LP3900 2300

「これでターンを終了!」

どうしよう…!

手札にはモンスターカードと儀式魔法 高等儀式術 しかない…!

「僕のターン!ドロー!」

引いたカードは… 思い出のブランコ !

エンドフェイズ時に自爆してしまうけど墓地から通常モンスターを特殊召喚するカード!

でも復活できるカードは デモン・ソルジャー しかない…!

「このままいけば遊馬の勝ちね!」

「いけ遊馬!初勝利が目の前だぜ!」

「おう!」

このまま…負けちゃうのかな?

手札には逆転できるカードなんて…

・ マンジユ・ゴッド とか使えるところだけ?

…そういえば手札に マンジュ・ゴッド がいる

たしか マンジュ・ゴッド の効果は儀式モンスターか儀式魔法を手札に加えるモンスター

そして 高等儀式術 は手札の儀式モンスターを選択して選択した儀式モンスターのレベル以上の通常モンスターを墓地に送るカード

…これだ！

「 マンジュ・ゴッド を召喚！」

マンジュ・ゴッド ATK1400 DEF1000

「 マンジュ・ゴッド の効果発動！デッキから儀式モンスターまたは儀式魔法1枚を手札に加える！」

「 儀式？あの使えない召喚方法か」

「 古いカードかよ…だせえ」

「 …デッキからこのカードを手札に加えるね」

ゴミ箱から拾ったカードがどんな効果を持つてるかわからないけど…ここで負けるわけにはいかない！

「 手札から 高等儀式術 を発動！」

「 高等儀式術 …？」

「このカードは手札の儀式モンスターを選択し選択した儀式モンスターのレベルの合計以上デッキの通常モンスターを墓地に送る事で選択した儀式モンスターを儀式召喚する事ができる！」

「手札消費をしなくてすむ儀式魔法だつて!？」

「僕はデッキからレベル8の ゴギガ・ガガギゴ を墓地に送る！」

ゴギガ・ガガギゴ の魂が巨大な闇を作り出す

「 終焉の王 デミス を儀式召喚！」

終焉の王 デミス ATK2400 DEF2000

僕の目の前には巨大な斧を持った悪魔が現れる

「デミス…！なんか強そうだな！」

「レベル8で攻撃力2400？」

「やっぱりエクシーズだな。レベル8で攻撃力2400とか…」

「…デミスの効果発動！」

効果は…なにこれ…強いじゃないか！

「ライフを2000ポイント払う事でフィールド上のデミス以外のカードを全て破壊する！」

「…す、全てええええ!!?」

聖 LP2300 300

デミスは巨大な斧を振りかざす

斧から出た衝撃波がデミス以外のカードを崩し去っていった

「けどまだライフは残るぜ!」

「いや、このカードで止めだ!手札から 思い出のブランコ を発動!

墓地から通常モンスターを特殊召喚できる!」

「通常モンスターってまさか 高等儀式術 で墓地に送った…!」

「墓地から ゴギガ・ガガギゴ を特殊召喚!」

ゴギガ・ガガギゴ ATK2950 DFF2800

僕の目の前に凶暴で巨大なトカゲが現れる

「バトル!デミスとゴギガ・ガガギゴで止め!」

「うわああああ!」

遊馬 LP3700 - 1650

「デュエル終了!勝者相沢聖!」



「勝った…！」

初めてのデュエルで勝った…！

「負けたああ！…でも楽しかったぜ！」

「うん！またやろうね！」

これで インヴェルズ・ローチ にD・パッドとD・ゲイナーが手に入るぞ！

「はい！これが インヴェルズ・ローチ だ！」

進さんが インヴェルズ・ローチ を僕に渡す

「あの…お金は？」

「はい6000円ね」

僕は進さんにお金を渡した

「あの…進さん？」

「なんだい？」

「…なんで儀式モンスターってだけで叩かれるんですか？」

…第2話に続く

## 第1話 時代遅れの召喚方法（後書き）

聖「次回予告？…王家と武士と亡霊とだけだと思ってた」

ゴキブ： インヴェルズ・ローチ を手に入れた聖

だが彼は複雑な気持ちになっていた…

「なんで儀式モンスターってだけで叩かれるんですか…？」

第2話 叩かれる理由

お楽しみに！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7187z/>

---

遊戯王ZEXAL 時代遅れのデュエリスト

2011年12月23日23時56分発行